

山を通して学ぶカリキュラムの国際協働による開発 —富士山・レーニア山教育交流の報告—

Curriculum Development by International Collaboration for Student Learning through Mountains

— Mount Rainier - Mount Fuji Sister Mountain Curriculum Project —

○松本千登世 (大阪市立工芸高等学校) 佐藤崇徳 (沼津工業高等専門学校)
Fawn Bauer (Mount Rainier National Park) Everett Hill (Chadwick International School)

キーワード: 教科横断型教育、富士山、レーニア山、国立公園、教員の国際協働、Teacher-Ranger-Teacher

1. はじめに

今年 100 周年を迎えたアメリカの国立公園は、「未来の世代へ価値を持続する」という使命を掲げ、教育分野でも成果をあげている。

とくに学校教育との連携も充実しており、公園内で自然科学、地学、地理、文学など多岐にわたる分野を横断的に学ぶ機会を提供し、「山から学ぶ」を実践している。また、教員対象の研修も盛んで、夏休み期間などに開催されるワークショップには全国各地から教員らが集まっている。また、ユニークな取り組みの一つに Teacher-Ranger-Teacher (以下 TRT) がある。これは学校の休業期間を利用した体験型教員研修制度で、受講者は一定の期間をパークレンジャーとして勤務できる。

マウントレーニア国立公園では、海外の山との交流を深めるために、新しいプログラムの開発を進めている。本発表では、日本の富士山との姉妹山提携を礎に行われた、両国の山を架け橋とした教育分野での交流について報告する。

2. 国際ワークショップ開催までの経緯

レーニア山(原住民による呼び名はタコマ)は、ワシントン州の郊外にある標高 4392m の火山である。日系移民の間ではタコマ富士と呼ばれ親しまれている。

富士山とレーニア山における交流の歴史は古く、1935 年に友好の証として山頂の石を交

換して以降、日本からのボランティア受入れなど数々の親交を深め、2003 年に姉妹山提携を結んだ。

2005 年、「姉妹山から学ぶ」という観点で、山を題材にした国際理解教育という新しい分野の教材開発への模索がマウントレーニア国立公園で始まり、2007 年に担当者が来日し、関係機関との調整を進めた。翌年の 2008 年、日米両国の関係者がマウントレーニア国立公園に集い協議した結果、両国で国際ワークショップを開催することが決定した。

この事業は Sister Mountain Curriculum Project と名付けられた。参加者は日本とアメリカから選抜した各 6 名の教員により編成され、事前に作成したレッシンプラン(指導案)に基づいて模擬授業を行い、両国の教員らの交流の中でその検討を行うこととした。

アメリカ側は全米に募集をかけ、6 名の TRT を選出し、国立公園局のスタッフに加えて、NGO の The Mountain Institute からアドバイザーを招聘し、チームが編成された。

日本側では国立公園当局に今回のプロジェクトを主導する体制がとれなかったため、日本の教員間の取りまとめを佐藤崇徳が担い、姉妹山提携の窓口となった NPO 法人の富士山クラブが協力して、静岡・山梨を中心とする中学・高校の教員らによる体制を整えた。

レッシンプラン作成に当たっては、次の 5 テーマを設定した。

＜レッシンプランのための5つのテーマ＞

- 1) 自然科学 *Physical Process*
- 2) 生態系 *Ecosystems*
- 3) 文化 *Human Culture*
- 4) 自然保護 *Stewardship*
- 5) 国際協力 *International Cooperation*

完成したレッシンプランは、両国で使えるようにウェブで公開することとし、それを共通のゴールとして設定することで、成果の持続と発展を目指すことになった。

3. ワークショップでの授業開発と教員交流

第1回のワークショップは、2010年夏にレーニア山麓で開催され、日本からは教員6名が参加した¹⁾。

現地では、国立公園の教育センターにて、TRTの作成した山を題材としたレッシンプランの説明を受けてから、実際に山に入り模擬授業を受けながら検討を行った。

レッシンプランの例を以下に示す。「環太平洋火山帯のマッピング」、「生態系・山の王者」、「生態系と環境倫理」、「ジョンミュアが語るレーニア山の歴史」、「山でポストカードを描こう」、「思いをはせる場所」、「二つの山・二つの人」、「レーニア山と富士山の類似点」

第2回のワークショップは、2012年夏に富士山麓（静岡・山梨）で会場を移しながら5日間にわたって開催し、アメリカからはTRT6名と国立公園局職員ら4名の計10名が参加した。

日本側から提示した富士山および山麓地域を題材にしたレッシンプランを以下に記す。「富士山の姉妹」、「上吉田の歴史」（フィールドワーク）、「中規模撓乱と植物の多様性の維持 ―フジアザミー」、「富士山五合目から三合目の自然観察」（富士河口湖町自然観察教室での実践例）、「青木ヶ原樹海と溶岩洞穴」（同）、「『iPad 地図帳』を用いたフィールドワーク」、「富士山授業の学際的アプローチで山や地球環境と共生する社会の担い手を育む」

以上7本の発表・検討に加え、富士山の原生林、山麓の湧水地、富士塚、浅間神社、富士講の御師宅などを訪問し、生活や文化に根ざす山のあり方について理解を深めた。また、地元の自然観察教室に同行し、子供たちの自然への関わり方について日米比較の視点から知ることができた。

最終日には、レーニア山頂の石が保管されている山梨県立富士ビジターセンターにて「富士山を題材にした教育」というテーマでシンポジウムを開催し、日米の教員らが今回の取り組みの成果を発表し、全日程を終了した。

プロジェクトの成果であるレッシンプラン集などは、マウントレーニア国立公園のウェブページから参照できる²⁾。また、参加した教員へのインタビュー記事がアメリカの学会誌「Education About Asia」に掲載された³⁾。

4. 課題と展望

山をテーマとする教科横断型教育を迫しているレーニア山の取り組みは非常に興味深い。日本の学校現場への応用に際しては、学校制度の違いなどから様々な課題が残っている。とはいえ、今回のような外国との協働のカリキュラム開発はたいへん意義深い。今後、同様の取り組みが継続的に広がっていくためには、しっかりとした組織づくりや環境整備が望まれる。

文 献

- 1) 佐藤崇徳ほか（2011）：山を通して学ぶ授業開発のための国際協働、富士学研究、8（2）、37-44.
- 2) National Park Service: The Sister Mountain Project、<https://www.nps.gov/mora/learn/education/sister-mountain.htm>（2016年7月現在）.
- 3) Lee Taylor（2010）：The Sister Mountain Curriculum Project Mount Rainier and Mount Fuji、Education About Asia、15（3）、55-58.